

トルコの教員養成に関するレポート：2015 年度におけるMEF 大学とBilkent 大学の事例から

著者	川村 光, 紅林 伸幸, 加藤 隆雄
雑誌名	教育総合研究叢書
号	10
ページ	151-163
発行年	2017-03-31
URL	http://id.nii.ac.jp/1084/00000477/

トルコの教員養成に関するレポート
—2015年度における MEF 大学と Bilkent 大学の事例から—

The Report of Teacher Training System in Turkey :
The Cases of MEF University and Bilkent University in 2015

川村 光* 紅林 伸幸** 加藤 隆雄***
Akira KAWAMURA Nobuyuki KUREBAYASHI Takao KATO

抄 録

本報告の目的は、グローバリゼーションとナショナリズムといった多くの国家が直面としている最重要政治課題を有しているなかで、トルコが今学校教育をどのようにしようとしているのか、またその担い手たる教師をどのように養成しようとしているのかを、2015年時点の MEF 大学と Bilkent 大学の教員養成の事例を通して確認することである。

その結果は次の通りである。MEF 大学では、Flipped Classroom を中心とした授業を行ったり、教育困難校でのサポート活動や教育実習を行ったりすることを通して、トルコ国内の教育の質的向上させることができる教員を養成することを目指している。また、Bilkent 大学では、国際バカロレアの教員養成を行うことを通して、グローバル社会に対応できる教員を養成することに主眼をおいている。

2015年時点で実現しようとしていた教育を、2016年以後のトルコ社会はどのように評価し、どのように実施しているのだろうか。そこにトルコ社会が教育の力をどのように理解し、どのような力を期待しているのかを読み取ることができるのかもしれない。

I. はじめに

我々研究チームは、21世紀市民をキーワードに、学校教育がこれからの社会にどのような役割を果たすことが期待され、実際に果たしているのかを問う研究を積み上げてきた。その作業課題の一つが、海外の学校現場と教員養成の視察である。本研究プロジェクトに先立つ関連した研究会を合わせれば、視察を行った国はすでに9カ国に及んでいる（イングランド、スコットランド、フィンランド、アメリカ、ベルギー、イタリア、カナダ、ルーマニア、ハンガリー）。とりわけ本プロジェ

* 関西国際大学教育学部 教育総合研究所学内研究員
** 常葉大学大学院初等教育高度実践研究科
*** 南山大学人文学部

クト（「教職の政治性と教員の脱政治化に関する総合的研究」）においては、1.非アングロサクソン系、2.ヨーロッパ共同体に関わりをもち、3.近代化に関わって日本と異なった社会的・文化的文脈を持つ、の3点を原則的な条件として視察国を選定してきた。連合国家という歴史的な文脈を持ち地域間格差の大きいイタリア、社会主義からの近代化を進めるハンガリー、ルーマニア、多元的多民族主義を実践するカナダについて、そして2014年度には非キリスト教系社会として近代化を進め、EUへの加盟を目指しているトルコの視察を計画した。

トルコは現在、EUへの加盟を希望し、そのための準備を進めていると言う。2015年のクルド人支配地区の空爆やロシアとの緊張関係の悪化などにより、見通しは明るくないが、少なくとも最近までそれは決して夢物語ではなかった。もしEU加盟がかなえば、イスラム教系社会としては初のEU加盟となる。しかし、このことに関わって興味深いことは、そうしたヨーロッパ化を望む一方で、レジェップ・タイップ・エルドアン大統領のトルコはイスラム教色を徐々に強める政策を進めていることである。これは教育政策でも同様である。アタテュルクによる建国以来禁止されてきたイスラム教の教育が復活し、一部必修化されている¹⁾。こうした動きは、グローバル化社会への一つの狡猾な対応策とみることができる。周知のように、いま日本でも同じようなことが起こっている。グローバリゼーションとナショナリズム、これは現在多くの国家が直面としている最重要政治課題である。こうした点において、トルコが今学校教育をどのようにしようとしているのか、そしてその担い手たる教師をどのように養成しようとしているのかを確認することは、本研究プロジェクトの目的にかなっていると考えた。

II. トルコの教員養成

本報告を行うにあたって、まず、トルコの学校制度と一般的な教員養成制度を確認する。

トルコの学校制度は4・4・4・4制である²⁾。これまで義務教育は小・中学校の8年制であったが、2012年に高校を含めた12年制に変更された。だが、新制度のため、そのシステムは流動的である。

高等教育に関しては、4年制大学進学率は34%（2013年現在）である³⁾。OECD加盟国の平均進学率は57%であるので、トルコは進学率において低位にある。このような状況にあるトルコは、2001年にボローニャ協定に調印し、ヨーロッパ高等教育圏の一員として、その構築に向けた取り組みを行っている。

トルコの大学の教育学部では、幼稚園、小学校、中学校、高校教員の養成を行っている。幼稚園・小学校・中学校教員養成は4年間行われ、学生は卒業すると教員資格とともに学士号を付与される。また、高校教員養成については、2014年度に制度が変更された。旧カリキュラムでは、学生は5年間の養成期間を経て教員資格とともに、学士号と、修士論文を作成せずに付与される修士号を取得する設計になっていた。だが、新カリキュラムでは養成期間は4年間に短縮され、学生は教員資格と学士号を取得する。したがって、現在は教育学部には旧カリキュラムで学修している学生とともに、新カリキュラムで養成教育を受けている学生の両方が存在している。

さらに、高校教員養成は教育学部以外の文系学部と理系学部でも行われており、そのパターンは2種類ある。一つは、高校教員志望学生が大学在学期間中に教員資格プログラムを受講するというものである。もう一つは、大学卒業後に、教職志望者が出身大学あるいは他大学で6~12ヶ月間の教員資格のプログラムを受講し、その資格を取得するというものである。

つまり、トルコの教員養成は、基本的に4年間（高校教員養成に限って4年間プラス6~12ヶ月間の場合がある）で行われ、学生が卒業時に学士号とともに教員資格を取得するというシステムになっている。

Ⅲ. トルコの教員養成学部の取り組み

1. 調査概要

本稿でトルコの教員養成の報告にあたって使用するフィールドワーク、インタビュー調査データは、Istanbulにある私立大学1校と公立学校1校、Ankaraにある私立大学1校とその系列学校2校のものである。

本調査の概要は表1の通りである。

表1 調査の概要

調査訪問校	MEF大学	Ayazağa School	Özel Bilkent Middle School	Bilkent大学	Bilkent Laboratory and International School – Middle School
調査対象者	<ul style="list-style-type: none"> •Muhammed Sahin (学長) •Mustafa Özcan (教育学部長) •大学教員8人 •Ayazağa schoolの校長・教頭 	<ul style="list-style-type: none"> •校長 •教頭 •学校教員5人 •カウンセラー1人 •Mustafa Özcan •プロジェクトに参加しているMEF大学教員5人 	<ul style="list-style-type: none"> •ディレクター •校長 •コーディネーター •学校教員8名 	<ul style="list-style-type: none"> •Margaret Sands (副教育学部長) •Necmi Aksit (副教育学部長) •Arman Ersev (パートナーシップ・コーディネーター) 	<ul style="list-style-type: none"> •ディレクター •校長 •学校教員9名
調査日	2015年9月28日	2015年9月28日, 29日	2015年10月1日	2015年10月1日, 2日	2015年10月2日

2. トルコの教員養成学部の取り組み

2.1. MEF 大学の挑戦

(1) MEF 大学の特徴

MEF 大学は Istanbul にある、2014 年度に初めて入学者を受け入れた私立大学である。教育学部、法学部、経済・経営・社会科学部、工学部、美術・デザイン・建築学部の 5 学部がある^{注1}。学生数は各学部 1 学年 100 名であり、授業は基本的にすべて英語で行われている。

本校の特徴は次の三つである。第一は Flipped Classroom（反転授業）に全学的に取り組んでいることである。大学教員は、大学にある特設スタジオなどでその授業のための講義を行い、職員がそれをビデオに録画し、ネット配信する。学生は事前にその授業を視聴し、質問などがあれば、授業担当の大学教員にメールで質問をする。その後、学生は授業に参加し、グループで各課題について議論をしたり、活動を行ったりする。第二は、学生は二つの大学の学位を取得することが可能であるということである。彼らは MEF 大学で 3 年間学修した後、海外の大学で修士の学位を取得するために 2 年間学修することができる。第三は、学生が 3+1 年制と 3+2 年制を選択できることである。学生の希望により、高等教育を受ける期間が決められる。

(2) MEF 大学における教員養成

① MEF 大学教育学部の目標

新興大学である MEF 大学教育学部には, Mathematics Education, English Language Teaching, Guidance and Psychological Counseling の 3 コースがある。これらのうち, 教員養成を行っているコースは Mathematics Education と English Language Teaching である。Mathematics Education コースでは, 5 年生から 8 年生の子どもが通う前期中等教育学校の教員を, English Language Teaching コースでは初等・中等教育学校の教員を養成している。調査時点(2015 年 9 月現在)で最高学年は 2 年生であるが, MEF 大学のプログラムでは学生は 3 年間の学部教育を受けた後, MEF 大学大学院で 1 年間, あるいは海外の大学院 2 年間の修士課程で学修する。このような教育学部では, 「学校が大学」というスローガンのもと, 次の 6 つの目標を掲げて教員養成を行っている。

- ① 知識ある経験ある教員の養成
- ② 教員養成のためのサポート
- ③ 大学教員育成のサポート
- ④ 地域の教育問題の解決
- ⑤ 教員養成以外で提携している学校のレベルを上げる
- ⑥ すべての子どもがよい教師に教えてもらえるようにする

これらの目標のうち, 1 番目と 5 番目の目標が大きな目標として位置づけられており, それらのことについて大学教員は次のように語っていた。

1 つめにまずよい教員を育てていく。2 つ目がその教員が生徒のレベルを, ひいてはその勤める学校の教育レベルを上げていく。この二本の柱があります。(2015 年 9 月 28 日 インタビュー・データより)

② 教育困難校に対するサポート

上述の目標を持って教員養成を行っている教育学部では, 全国で初めての取り組みとして, 2014 年度から公立学校のサポートを行っている。その学校は大学から 1 キロ圏内にある Ayazağa School であり, 経済的に貧しい家庭が多い地域にある。5 歳から 14 歳までの子どもがその学校に通っており, 全校子ども数は約 1800 人, 教員数は約 80 人である。午前 7 時 30 分から昼過ぎにかけて中学校の授業が行われ, 小学校の授業は中学校の授業終了後以降, 18 時過ぎまで行われている。

大学はその学校の子どもの学力向上のため, 子どもや学校教員に対する支援を教育学部の大学教員 15 人全員と学生で行っている^{註2}。大学としては, 今後その取り組みを全国的に普及させたいようである。

1年目である昨年度は中学校で取り組みを行った。例えば次のものがあげられる。

- ・大学教員による数学の授業
- ・学校教員の授業に対する大学教員のサポート
- ・子どもに対する大学教員によるカウンセリング
- ・子どもの保護者との面談
- ・学校図書館への献本
- ・寄付

これらの取り組みのうち、特に力を入れたことは、数学の授業とカウンセリングである。

まず、数学の授業については、大学教員^{註3}がグループになり、取り組みを行った。彼女らは大学で週1回、カリキュラムについて検討するとともに、レッスン・スタディを行い、授業の準備をした。授業内容は、国が定めたカリキュラムに則っているものの、テキストは使用せずに授業を行った。授業では、子どもが他者の話にしっかりと耳を傾けることと、彼らの「なぜ？」という問いを大切にされた。また、多様なアプローチで一つの解答について検討する授業展開をした。さらに、週に1回、交換日記のように、子どもに数学の授業でわからない点をまとめさせ、その点について回答した。彼女たちはこれらの取り組みを通して、子どもの学力を向上させることだけでなく、学習に対する彼らの態度や関心の変化にも注目し、分析を行った。

次に、カウンセリングに関しては、まず、Ayazağa Schoolのカウンセラーと、カウンセラーである大学教員が相談をし、子どもの課題を出した。その上で、大学教員と学生がカウンセリング・システムを構築し、それに則って子どものサポートをした。週に1回、大学教員が、課題を抱えている子どものカウンセリングを行った。彼女らは、子どもの生活態度の改善を図るために生活面のサポートを行うとともに、数学に対する恐怖心をなくすための取り組みなど、学習面のサポートも行い、数学のプロジェクトチームと協働して、子どもの支援をした。その他、バーンアウトの学校教員のカウンセリングもした。

上述の取り組みは教育省やIstanbul県と1年契約であったのだが、その効果を検証した結果、子どもの数学の学力が向上するとともに、カウンセリングも効果があることがわかった。そのため、2015年度から3年契約で発展的な取り組みを行うことになった。その取り組みとして、数学の授業を継続して行うとともに、英語の授業と保護者のカウンセリングを新規に行うことになった。また、中学校だけでなく、小学校でも取り組みが行われる予定である。

また、昨年度の取り組みの課題も見えてきた。それは、大学教員と学校教員の連携不足である。

ある大学教員は、「私たちは1日24時間、週7日間、働いています。」と笑いながら語っていた。彼女らは通常の学内業務だけでなく、数学やカウンセリングのプロジェクトに関与しており、かなり多忙であったことが伺える。また、トルコの公立学校の場合、1つの校舎に午前中は中学校教員、午後は小学校教員が勤務する形態であり、すべての学校教員が朝から夕方ないし夜まで学校で業務を行っているわけでない。彼らはその日の自分の担当授業の開始時刻30分前に出勤し、その日の授業をすべて終了すると帰宅する。また、プロジェクトに必ずしも積極的に関与しているわけでは

ない。これらのことから、大学教員と学校教員が話し合う機会を持つことが難しいのが現状である。

校長は、「本校の先生が大学の先生と一緒に授業をするとうまくいきました。ところが、大学の先生から本校の先生は教授技術を学び、それをもとに授業をしたのですが、大学の先生が授業されるようにうまくいきませんでした。本校の先生たちをけなすわけではありませんが、明らかに授業が違っていました。良い意味で、大学の先生たちから学びたいですね。それと、チームとして大学の先生と本校の先生が協力することが大切だと思います。」と述べていた。また、大学教員は、「教科内容をよく知っている大学教員と、子どものことについてよく知っている学校教員が協力することがすごく大切です。」と語っていた。学校教員が大学教員から教育方法を学ぶだけでなく、両者が協働し、チームとして子どもの教育を行っていくことが重要であると、学校と大学は考えている。

以上の特徴的な取り組みを行っている MEF 大学教育学部の教員養成システムは、アメリカのものをベースにトルコの状況にあわせて設計されている。1, 2 年次は、大学での基礎教育に重点が置かれ、学生は学校現場でインターンシップをときどき行う。今後の計画では、3, 4 年次は大学での授業を受けつつ、実習に重点が移っていく。3 年次は見習い期間として前期に 1 つの学校で、後期に別の学校で実習を行い、4 年次は 1 年間インターンとして学校で経験を積む。なお、学校現場での経験プログラムのなかには、Ayazağa School での活動も組み込まれている。トルコでは、4 年間を通して教育実習の時間は 84 時間が一般的であるのだが、MEF 大学では 2 年間の実習を義務づけている。

(3) MEF 大学が目指す教員養成

MEF 大学の教員養成の特徴として次のものがあげられる。

第一は、Flipped Classroom を主要な教育方法として採用していることである。それについては MEF 大学のホームページに次のように記載されている。

Harvard 大学の物理学専門の Eric Mazur 教授によると、Flipped Classroom は二段階プロセスの学習である。第一段階は知識の転移（大学教授や異なる資源を通じて、知識の情報源から学生への知識伝達）であり、第二段階は学生による知識の内化である。

伝統的な教育システムにおいては、大学教員は教室で学生に知識を伝達するという単純な仕事を付与される。一方、学生はひとりで宿題を完成させ、知識を内化するという困難な課題に直面する。Flipped Classroom のモデルでは、大学教員によって準備されたコース・ビデオや、記事、エクセル・シート、PDF ファイル、映像、画像、パワーポイントといった補助資料によって、学生への知識の転移は授業の前に行われる。このことは、直接的な教授がグループ学習空間から個別学習空間へと移行することを意味する。学生が概念を活用し、主題に対して創造的に取り組むとき、結果として生じるグループ空間は Flipped Classroom 環境へと転換する。それは大学教授が学生を導く、ダイナミックで相互作用的なものである。これにより、学生は大学教授やクラスメイトと協同して知識を内面化し発展させる。それは、学習者であることの

本質的な要素である。^{注4}

全学的に取り入れられている **Flipped Classroom** による大学での学修を通して、教職志望学生の学修態度がどのように変容し、どの程度の専門的知識と技術を習得していくのか、また、主体性や自律性は育成されていくのか、今後も注目していく必要があるだろう。

第二は、トルコ国内の教育の質的向上を目指した取り組みを通して教員養成を行っているということである。まず、学生は **Ayazağa School** などの教育困難校での実習を行い、学校の教育の質を向上させて教育的課題を改善していく経験を通して、教師としての力量を形成していく。また、彼らは、**MEF** 大学が国内で初めて取り入れたトルコ文化に関する授業を受ける。そのことについて大学教員は下記のように述べている。

トルコの教育学部の学生すべてがですね、トルコ文化に関わる。何でもいいんです。食べ物、トルコの食事、料理でもいいですし、楽器でもいいですし、ダンスでもいいですし。とにかく何か一つを習得して、それを子どもたちに還元していくと。だからやっぱり、教師の教養を高めるという意味で、しかもトルコ文化に関わっているものをやっぱり深めるっていうことで、すごく大事な要素だと思っています。(2015年9月28日 インタビュー・データより)

MEF 大学では、学生がトルコ文化を習得することによって、子どもにその文化に親しませ、文化の伝承を通してよりよい教育を全国的に行っていくことを視野にいたした養成教育が行われている。さらに、教育を質的に向上させられる力量ある教員を養成できる大学教員を育成することも、教育の目標にあげており、教職を目指す学生だけでなく大学教員の育成も視野に入れている。これらのことから、**MEF** 大学は、将来のトルコの教育を担う教員、その教育の質を向上させられる教員を養成していると言えるだろう。

2.2. Bilkent 大学における教員養成

(1) 教員養成システムの概要

Bilkent 大学は **Ankara** にある 1984 年に創立された私立大学である^{注5}。学部は 9 つ、大学院研究科は 3 つある。学生数は約 12500 人、大学教員数は約 1000 人である。

3 つの大学院研究科のうち、教員養成を行っている研究科は **Graduate School of Education** (以下、**GSE** と略記) である^{注6}。トルコでは修士課程は 1 年間が一般的なのだが、**Bilkent** 大学の **GSE** では在学年数は 2 年間である。一般的な教職課程は 25 単位であるのに対し、**Bilkent** 大学では 34 単位設定されており、院生は他大学より多くの単位を取る必要がある。さらに大学院修了にあたっては、修士号と教員資格の両方を取得しなければならないので、修士課程に関わる 24 単位をあわせると、修士課程修了時には 58 単位を取らなければならない。彼らは修了すると、修士号、高校教員資格 (英語、生物、数学、物理^{注7}、国語)、国際バカロレア (**International Baccalaureate** :

以下 IB と略記) 教員資格を取得することができる。GSE は IB 教員養成機関として認定を受けているため、院生は修士号と教員資格の両方を取得すると、IB 教員資格も保持することができる。

GSE には、様々の背景と指導方法を持った海外出身の大学教員たちがおり、英語で授業がほとんど行われている。そのことを通して、GSE は国際的な教員養成を目指している。教員資格プログラムは、教職教養、教科教育法、教育実習の 3 コースから成り立っている。これらのうち、教育実習は 2 年間のすべてのセメスターに組み込まれている。

まず、1 年生の第 1 セメスターでは、1 週間に 1 度、Bilkent 系列の中等学校に行き、様々の学年の特定の教育活動を観察し、セメスターの最後に 1~2 時間授業をする。第 2 セメスターでは、院生は Ankara 市内の最も優秀と言われている学校や、Isatnbul や Izmir の学校で実習を行う。このときは、朝から夕方まで学校で教師の仕事や子どもたちの観察を行う。また、授業を約 5~6 回行う。2 年生の第 3 セメスターでは、これまで実習を行った学校などで 6 週間の実習を行う。これらの 3 セメスターで、院生は 1 年半の間に 6 つの学校で合計 15 週間実習を行い、40 回授業を行う。その後、第 4 セメスターでは、院生はイギリスの Cambridge 大学を訪問し、その大学の教員養成プログラムに参加し、その後、イギリスの学校で、教職志望のイギリス人とペアで実習を行う。この実習プログラムは 5 週間のものであり、必修ではない。

トルコの一般的な大学院生の場合、1 年間のうちに 1, 2 校で 3 週間の実習を行い、1~4 回の授業をする。それと Bilkent 大学での教員養成を比較すると、充実した特殊なカリキュラムであることがわかる。

(2) IB 教員養成機関としての Bilkent 大学

IB とは、「国際バカロレア機構（本部ジュネーブ）が提供する国際的な教育プログラム」のことである。それは、「1968 年、チャレンジに満ちた総合的な教育プログラムとして、世界の複雑さを理解して、そのことに対処できる生徒を育成し、生徒に対し、未来へ責任ある行動をとるための態度とスキルを身に付けさせるとともに、国際的に通用する大学入学資格（国際バカロレア資格）を与え、大学進学へのルートを確保することを目的として設置」された。「現在、認定校に対する共通カリキュラムの作成や、世界共通の国際バカロレア試験、国際バカロレア資格の授与等を実施」している⁴⁾。

また、IB の使命を具体化した学習者像として以下の人物像があげられている。

- ・探求する人
- ・知識のある人
- ・考える人
- ・コミュニケーションができる人
- ・信念をもつ人
- ・心を開く人

- ・思いやりのある人
- ・挑戦する人
- ・バランスのとれた人
- ・振り返ることができる人⁵⁾

GSE は、国際バカロレア機構から教員養成機関として 2010 年に正式に認定を受けて、IB 教員の養成を行っている^{注 8)}。また、Bilkent 系列の Özel Bilkent Middle School と Bilkent Laboratory and International School は IB 認定校になっている。前者においては生徒全員が高校、そして大学に進学する。なお、彼らのうち 80-90%が Bilkent 系列の高校に進学する。また、後者については、教員の 35%がトルコ人、65%が外国人という国際性豊かな学校であり、子どもは 75%がトルコ人、25%が外国人である。幼稚園段階から IB 取得のための教育が行われている。Bilkent 大学の実習生は、上記の IB 認定校でエリート校として位置づけられる学校で実習を行っている。

実習生を受け入れている Bilkent 系列の学校を運営する立場にある関係者は、実習生には一年目は教職の全般を理解すること、二年目はメンターと議論しつつ教授技術、さらにはメンターのサポートのもと保護者とコミュニケーションをする力を習得させたいと述べていた。

また、他の学校関係者は、IB 認定校での実習に関して次のように指摘していた。

IB 認定校には様々の国から教員が集まってきて、お互いに学びあっています。…中略…実習生が学校に来ると、教員の刺激になってよいですね。…中略…実習生はトルコの教育を受けており、必ずしも視野が広いとは言えません。そこで、本校で様々の国から来ている教員との関わりを通して、いろんな教え方があること、いろんな教員がいることを知り、視野を広げることが大切です。(2015 年 10 月 2 日 フィールドノートより)

(3) Bilkent 大学が目指す教員像

これまで述べてきたことから、Bilkent 大学では 2 年間という養成期間で、IB 認定校を含むエリート校での実習経験を通して、国際的に通用するエリート教員を養成していることがわかる。

Bilkent 大学の教員は教員養成について次のように語っていた。

貧困地域に行って、貧しい人々の教育を行うこと。これは一つのことです。しかし、豊かとか貧しいとかということとは関係のないことがあります。それは他を理解することです。他の文化、他の宗教、他の国々を理解することです。私たちは国際的な市民として自律することが重要です。そこに教員養成の焦点をあてています。その養成は私たち外国人教員が行います。学生は異なる文化を有する外国人教員と出会います。(2015 年 10 月 1 日 インタビュー・データより)

Bilkent 大学の教員養成においては、出身国が異なる大学教員が教員養成に携わり、IB 認定校においては様々の国から来た教員が実習生の指導を行うなど、学生がグローバル社会における教職に必要な資質・力量を形成していける国際性豊かな環境が整えられていると言えるだろう。

IV. おわりに

本稿では、2015 年に実施したトルコの 2 つの私立大学で行われている教員養成プログラムの視察調査の結果に基づいて、トルコの教員養成制度を具体的に紹介してきた。しかし、ここに紹介したものが、トルコの教員養成制度のすべてなのか、また一般的な教員養成のプログラムなのかについては、2 つの意味で留保が必要だろう。

第一は、今回対象とした大学が、視察を受け入れてくれたことから明らかなように、開放的な私立大学であり、またその私立大学の中でもかなりランクの高い大学であるという点である。2 つの大学は、野心的に、新しい教育方針を取り入れており、同じことをすべての大学が実施できるわけではない。IB の認定はかなり高いハードルであり、すべての授業を Flipped Classroom で実施することは、教員の能力という点でも、設備経費という点でも、極めて特殊なケースと言わざるを得ない。それは 2 つの大学の取組み自体がまったく異なった個性的なものであることから推察できる。

第二は、2015 年の視察調査の実施後に、トルコ社会がさらにイスラム化を進めていることである。2016 年 7 月にエルドアン政権の転覆を謀るクーデター未遂事件が起こったことは記憶に新しい。事件の沈静後、エルドアンは、多くの大学関係者を検挙し、複数の大学を閉鎖したと報道された。この一連の大きな事件が、学校教育にまったく何の影響も及ぼさなかったのか、なんらかの影響があったのかを、現時点で筆者らは確認できていない。2 つの大学の実践が先端的なものであるだけに、その後の実施状況を見守る必要があるだろう。

以上の意味で、本稿が紹介した事例をトルコの教員養成の典型として述べることはできないが、2015 年時点でのトルコの理想型を追求できる力のある 2 つの大学がチャレンジしているプログラムは、間違いなくトルコ社会が評価をし、向かっていこうとしていた社会の在り方を先取りしたものとして理解できる。このような前提に立ったときに、今回の視察の結果として注目すべき第一の点は、2 つの大学の教員養成のプログラムがともに、学習困難校に対する支援やコミュニティへの奉仕を重視していることだろう。トルコは子どもたちの学力に課題を抱えている。より具体的には学力格差が大きいという問題である。学習困難校に対する支援やコミュニティへの奉仕はトルコの教師にとって必須の資質能力なのである。

その一方で、2 つの大学ではすべての授業が英語で行われており、英語ができる教師が養成されている。もちろん 2 つの大学が英語による教育を徹底していることは、教員養成に関わる課題というよりは、大学の生き残りをかけた取り組みであり、優秀な学生を確保するための戦略である。したがって、英語の出来る教師が養成されていることも、目的ではなく、結果として理解すべきかもしれない。しかし、一部のエリート校では、英語しか話せない教師が当たり前採用されている事

実もあるほどに、英語のニーズは高まっている。トルコ社会が英語によるコミュニケーションを前提とするグローバリゼーションの中にあること、教員養成がその一部として組み込まれていることは注目すべき点として指摘して良いだろう。

第三の点は、以上の2つの取り組みがともに、体験的な学習として行われていることだろう。前者は学校支援という体験的な学習、後者は英語による学習活動を通しての実践的な学習と、形態は異なっているが、ともに大きく枠づければアクティブ・ラーニング的な学習としてとらえることができる。大学での教育がアクティブ・ラーニングにシフトしていることも教員養成に特有のものではないが、教員養成の主要課題への取り組みがアクティブ・ラーニングで行われていることは、一つの特徴として指摘できるだろう。

2015年時点で実現しようとしていたこれらの教育を、2016年以後のトルコ社会はどのように評価し、どのように実施しているのだろうか。まさにそこにこそ、トルコ社会が教育の力をどのように理解し、どのような力を期待しているのかを読み取ることができるのかもしれない。

【参考・引用文献】

1)丸山英樹「トルコの教育改革－欧州水準を目指した量的拡大と世俗主義維持の機能－」『国立教育政策研究所紀要』第136集，137-151頁，2006

2) 外務省「諸外国・地域の学校情報 トルコ共和国」(URL:
http://www.mofa.go.jp/mofaj/toko/world_school/06middleeast/infoC61200.html アクセス：2017年2月3日)

3) OECD *Education at a Glance 2015*, OECD publishing, 348, 2015

4)文部科学省「国際バカロレアとは」(URL:
http://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/ib/1307998.htm アクセス：2017年2月3日)

5) 文部科学省「国際バカロレアの理念」(URL:
http://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/ib/1353422.htm アクセス：2017年2月10日)

【脚注】

注1 MEF大学の基本的な大学情報についてはホームページを参考にした。(URL:
<http://www.mef.edu.tr/en> アクセス：2017年1月28日)】。

注2 MEF大学はAyazağa Schoolのサポート以外に、その学校のあるSarıyer市と提携し、保護者のセミナーを開催し、保護者の教育を行っている。例えば、子どもの宿題のサポート方法や、子どもの栄養面に関することなどについて講義するとともに、保護者の質問に大学教員が回答する機会を設けている。

注3 授業のプロジェクトに関与している大学教員は数学の教員免許を保持し、2年間の学校での教授経験を有している。また、博士号を原則的に取得している。

注4 MEF大学ホームページ(URL:
<http://www.mef.edu.tr/en/flipped-classroom> アクセス：2016

年 2 月 12 日) より引用した。なお, 2017 年 2 月 1 日現在, Flipped Classroom は Flipped Learning という表現に変更されている (<http://www.mef.edu.tr/en/flipped-learning> アクセス: 2017 年 2 月 1 日)。本報告では, 調査時点での表現を踏襲し, Flipped Classroom と用語を使用する。その学習方法の詳細については, 前述の MEF 大学のホームページを参照されたい。

注 5 Bilkent 大学の基本的な大学情報についてはホームページ (URL : <http://w3.bilkent.edu.tr/www/> アクセス: 2016 年 2 月 2 日) を参考にした。

注 6 教員養成に関する情報については, Bilkent 大学の Necmi Aksit 准教授に対するインタビュー調査のデータと, Bilkent 大学で入手した資料に基づいている。また, 松浦らの報告 (松浦伸和, 伊藤真, 岩田昌太郎, 松宮奈賀子, 幸坂健太郎, 守長和人「グローバル教員養成に関する国際調査—トルコのビルケント大学を事例として—」『広島大学大学院教育学研究科共同研究プロジェクト報告書』第 13 巻, 103-112 頁, 2015) も一部参考になっている。

注 7 2015 年からプログラムを開始した。

注 8 GSE の IB プログラムについての詳細は, 前掲の松浦らの報告 (2015) に詳細が記載されている。

【謝辞】本稿を執筆するにあたり, イスタンブールにおける調査では MEF 大学の Mustafa Özcan 教授に, アンカラにおける調査では Bilkent 大学の Necmi Aksit 准教授にコーディネートをしていただいた。また, 彼らを含むトルコでの調査でお世話になった関係者の方々は, 快く調査に協力していただくとともに, 貴重な情報と資料を提供してくださった。さらに, 現地調査にあたっては, 中澤渉氏 (大阪大学大学院・准教授) に協力していただいた。ここに感謝の意を表す。

【付記】本研究は, 平成 23-27 年度科学研究費補助金 (基盤研究 (B)) 「教職の政治性と教員の脱政治化に関する総合的研究」(課題番号 23330241 研究代表者: 紅林伸幸) の交付を受けた。

Abstract

The purpose of this report is to confirm the trend of school education and teacher training in Turkey wherein many nations are confronting globalization and nationalism as the most important politic issues. This research is based on the cases of MEF University and Bilkent University in 2015.

The results are as follows. In the case of MEF University it is necessary to train the teachers who can improve the education of Turkey by taking in Flipped Classroom in the lessons of the university and the curriculum of support activities and teaching practice in the school that there is in scanty area. On the other hand, Bilkent University should focus on training instructors who can respond to the global society by training teachers of international baccalaureate.

How will Turkish society evaluate the education of 2015 and carry it out from 2016 onwards? It would be possible to grasp how the society understands the power of education and their expectation.